

京都産業大学 ことばの科学研究センター 2021 年度 第 1 回研究会 「アフリカ人の名前」

梶 茂樹

(ことばの科学研究センター 研究センター員・現代社会学部 元客員教授)

世界には言語は多いが、その多くは無文字言語である。語彙と文法の調査のあとテキスト分析も必要となるが、文学はあっても文字に書かれることはないので、調査者自身が文字化していく必要がある。今回は短いテキストの代表として人の名前の考察を行う。例は、コンゴのテンボ族、ウガンダのニョロ族など私が現地で調査してきたアフリカ諸族のものをを用いる。そこでは無文字社会がいかに文字の問題に対処しているか、その一端を見ることができる。

人の個人名はその人を他の人から区別することを第一の目的とするが、同時に、その子供が生まれた時の家族や社会の状況を記録する媒体としても働く。テンボ族やニョロ族などアフリカの多くの地域では、子供が生まれた時点での親の最大の関心事がその子供の名前となって表れてくる。例えば、戦争が起こって大変だという場合は、戦争といった名前が子供につく。また近所に自分をねたんでいる人がいれば、ねたまないで欲しいというメッセージをその人に発するが、これを子供の名前の中に刻んでおく。こういったメッセージの交換は、夫婦間、親子間、兄弟間、隣人間など様々な人間関係に基づいて行われる。それはあたかもお互い手紙を書いているかのようなのである。名前はメッセージであり、それは様々な人間関係という観点から分析できるというのが私の結論である。

2021 年 6 月 23 日 (水) 15:00~17:00

場所：第二研究室棟会議室および Teams によるオンライン開催

オンラインによる参加の場合のみ、下記へメールでお伝えください。

発表時の Teams に登録いたします。

center-lg-studies@cc.kyoto-su.ac.jp (ことばの科学研究センター)